

第 20 回宮崎県新型コロナウイルス感染症対策協議会 議事概要

日時：令和 4 年 7 月 8 日（金）19：00～20：30

場所：防災庁舎 4 階 43・44 号室

（委員）

先月中旬から県内の実効再生産数が 1 を超えており、新規感染者数の増加が予見される中、国において屋外では基本マスクを外すことが推奨され、感染防止対策の緩みにつながったのではないかと考えている。県においても、実効再生産数等を活用しながら感染の増減を予測し、対策を講じてはどうか。

（事務局）

リアルタイムでの感染増減の予測については、感染から発症までのタイムラグ等があるため、正確な予測は難しいが、実効再生産数を各対策の参考にすることも検討していきたい。

（委員）

学校における感染事例として、1 人目の陽性者が確認された際、他の生徒は適切にマスクを着用していたことから、濃厚接触者に該当する生徒はいないと判断したが、その後、3 日間でクラスの約半数の生徒が陽性となった。濃厚接触者の特定や学級閉鎖に係る判断が難しいと感じている。

（事務局）

感染から発症までの期間は概ね 2～3 日間となっており、感染拡大防止に特化して考えるならば、陽性者が確認された場合には 1 週間程度の学級閉鎖が望ましいが、学校現場においては、子ども達の学びの機会を確保しつつ、感染防止対策を講じていくことが重要ではないかと考えている。

（委員）

同じく、事業所や学校での濃厚接触者の特定の判断が難しい。前回の協議会において、一定のマニュアル等の作成の必要性について意見があったと思うが、対応状況はいかがか。

（事務局）

濃厚接触者に係る対応については、県ホームページにチェックリストを掲載し、周知を図っている。手が触れることのできる距離で、必要な感染予防策無しで、陽性者と 15 分以上接触があった場合など、個別の接触状況を踏まえた上で判断いただくこととなる。

(委員)

九州各県で感染が6月以降高止まりしている状況について、どのような要因が考えられるのか。

(事務局)

九州固有の要因分析は難しいが、県内の感染の広がりのイメージとして、学校や教育・保育施設等で感染し、家庭内に持ち込まれ、職場等へと感染が拡大している状況にある。

(委員)

既に市中感染が広がっている状況である。季節性インフルエンザと同様に、感染予防を徹底しながら通常生活を送る必要がある。

(委員)

入院患者について、「第5波」と比較すると重症度の低い患者が多いことから、今後は、一部の医療機関に限らず、クリニックも含めた入院受入体制の構築が望ましい。

(委員)

ワクチン接種が進んだこともあり、オミクロン株による肺炎治療を要する患者はほとんどおらず、新型コロナ以外の疾患の症状のみが見られるケースが多い。また、院内での感染制御の対応についても、サージカルマスクで診療を行うなど、簡素化している。このような状況から、今後は多くの医療機関で入院受入対応を行うことができるよう、準備を進めていくべきである。

(委員)

当方が診療している重症心身障害児等の患者が感染した場合には、一般患者とは違い、引き続き院内でも慎重な対応が必要となる。「第5波」と比べ、オミクロン株による重症者は少ないが、慎重な対応が必要となる患者がいるということも忘れないでいただきたい。

(委員)

新型コロナに関する救急搬送困難事案が増加している。新型コロナ以外の救急患者の搬送にも影響が出かねないため、各病院においては受入れに協力いただきたい。